

三陸北縦貫道路の一部「普代バイパス」

普代高架橋下部工の工事が 住民の夢乗せて順調に進む

至宮古

普代村を通る国道45号は、通勤通学、物流や観光などさまざまな役割を担う主要幹線道路です。一日の交通量は約四千台にもなります。しかし、幅員が狭いうえに直角曲がりや急勾配の区間が連続しています。冬季間には、市街地での除雪や車、歩行者の阻害など、さまざまな問題が指摘されてきました。こうした状況の解消に、普代バイパス（地域高規格道路）が計画されました（「広報ふだい」平成十二年六月号に詳しく掲載されています）。すでに普代第一、第二トンネルは、平成十四年十月に完成しています。今月号では、普代高架橋完成想定図を中心に、改めて「地域高規格道路」と順調に進む「普代高架橋下部工工事」についてお知らせします。

地域高規格道路って？

地域高規格道路とは、全国の高規格幹線道路に接続し、一体的に機能する重要な幹線道路です。

高規格幹線道路は、「東北縦貫自動車道（東京～青森）」や「東北横断自動車道（山形道、秋田道など）」のような時速八十キロメートル～百キロメ

ートルの高速道路などをいいます。全国で約一万四千キロメートルの整備が進められ、岩手県内では仙台から宮古までの「三陸縦貫自動車道」や釜石から花巻までの「東北横断自動車道」の設計や工事が現在行われています。

地域高規格道路とは、高規

格幹線道路と一体となって、地域と地域を結ぶ広域道路で、地方間の交流促進や交通拠点の連絡強化を目標としています。岩手県内では、盛岡から宮古を約一時間で結ぶ「宮古盛岡横断道路」、宮古から久慈を約一時間で結ぶ「三陸北縦貫道路」が計画されています。普代バイパスは「三陸北縦貫道路」の一部として整備が進められています。